

編集後記

2015年夏。日本は、戦後70年の節目を迎えました。10代に過酷で悲惨な体験された方々の年齢も80歳を超えた今、「歴史の生き証人」として当時の記憶を肉声で語り伝えてもらい、真実を記録しておかなければならないという気運が日本中で高まりました。

30数年前、私が大学で学んだ教授陣には高等教育機関在籍中に兵力不足を補う学徒出陣で徴兵された経験をお持ちの先生が何名かいらっしゃいました。先生は講義や校務の他、古語辞典の編纂や研究論文の執筆など、次々と精力的に仕事をされていました。

或る懇親会の席上、談話の流れで私が不躰にも「先生は何故そんなに論文が書けるのですか？」とお尋ねした際、先生は「学業の途中で戦争に動員され、志半ばで戦死した友人の分まで勉強しなければ申し訳が立たないからだ」ときっぱり答えられました。

「生き残った者の責務を果たす」といった気迫が先生から伝わり、私は思わず頭を垂れました。そして「平和な世の中で勉学できる有り難さ」に感謝しました。戦後生まれの私が、軍人として戦争を体験された先生の聲咳に接した貴重な機会でした。

さて、こども学科所属の私は何をなすべきかと振り返ると、やはり戦争児童文学などを通じて「戦争は子どもの夢や未来を奪う愚かな行為だ」という真実を語り伝えていくことではないかと思いつつ、『人間科学研究』第9巻第1号をお届けします。

今号は、こども学科7件、スポーツ学科4件、経済学部1件、教養教育部4件、合計16件の投稿がありました。

どうぞ高覧ご批正くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

2015年9月吉日

編集委員長 馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は基本的に人間科学部会に帰属します》

